【注意】本コンテンツは、株式会社日本工業新聞社に許諾を得て転載しています。当記事の無断複製転載を固く禁じます。

2018 年 10 月 29 日　FujiSnakei Business i.　P22

i.Catch

IoTセンサーを活用した見守りシステムなど「第45回国際福祉機器展H. C. R. 2018」に出展

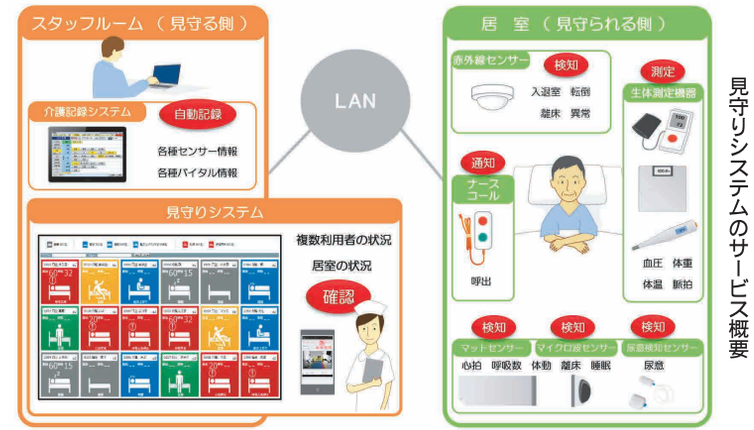
日立システムズ

介護・福祉向け機器やロボット、ICTシステムなどが数多く出展される国内最大級の福祉機器の国際展示会「第45回国際福祉機器展H. C. R. 2018」が10月に東京ビッグサイトで開催された。同展は、日本で初めて開催された国際展示会（第13回）であり、現在ではアジア最大規模を誇る。少子高齢化による介護市場の拡大に伴い、展示規模は年々拡大している。

入居者の異常や予兆を各種IoTセンサーで検知

介護・福祉事業者向けに業務管理システム「福祉の森」を18年間提供している日立システムズは、今回、国際福祉機器展の開催に先立ち、各種IoTセンサーの活用により入所者の健康状態を一元的に管理する見守りシステムの実証実験を開始し、2018年中のサービス提供をめざすと発表した。同展でも参考出展され、本システムを目当てに訪れた来場者も多く、ブースはにぎわいを見せた。

本システムは、赤外線センサーやマット型の生体センサーといったさまざまなIoTセンサーを通じて入所者のバイタル情報や生体情報等を収集し、スタッフルームに備え付けのPCやタブレット端末、スマートフォンなどにリアルタイムに表示させ、視覚的に状況を把握することが可能。これにより居室への空振り訪問回数を大幅に削減できるだけでなく、異常を検知した場合にはナースコールからの着信により迅速かつ適切な対応ができるようになる。



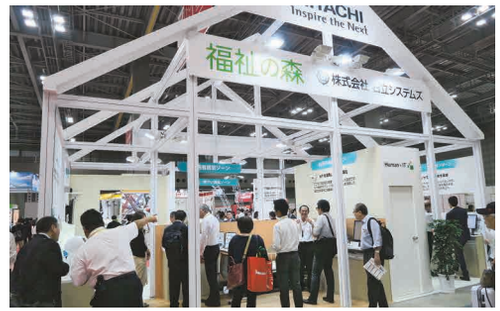
見守りシステムのサービス概要

介護記録システムとデータ連携

また、血圧測定結果や検温データ等の介護記録への記入に費やしていた時間を短縮するために、専用の生体測定機器を採用することにより、「福祉の森」などの介護記録システムにデータを自動連携できる仕組みを提供する。これらのバイタルデータと各居室から各IoTセンサーを通じて受信したデータを集約することで、各種介護記録帳票が簡単かつ短時間で作成することが可能になる。来場者からは、現状の課題を本システムで解決できるかといった具体的な相談が寄せられていた。

その他、5000施設への導入実績を持つ「福祉の森」や地域包括ケアシステムの構築を支援するサービス、健康経営を支援するサービスなどを中心に介護・福祉事業者の業務負担の軽減・職員の健康をサポートするサービスを紹介した。

見守りシステムのデモ展示



にぎわう日立システムズのブース